



栄グループ社内報

2015
Vol. **11** 新年号



新年特別企画

今こそ、栄グループの垣根を超えた連携を

SAKAE GROUP TOP SUMMIT

栄グループミッション

二度と事故を起こさないために

災害ゼロをめざして

栄グループの最新情報をお届け

GROUP TODAY

新しい仲間を紹介します！

New Face



大釜哲の熱血レポート！ Vol.1

『コマツラグビー部』編

お疲れさまでした倉田さん

プロが教える本格レシピ ～炊き込みご飯～

二〇一五年、新たなスタート グループの垣根を超えて情報共有し、 連携する組織への変革を。

2015年、新しい年がいよいよスタートしました。
巻頭特集は、栄グループのトップが一堂に会して座談会を行い、様々な意見を交わしました。
新しい年を迎え、栄グループの二員としてめざすべき目標は、
これまで以上にグループの力を発揮させていくための施策とは何か――。
栄グループトップの新年にかける熱い思いを皆さまにお伝えいたします。

小松社長(以下敬称略) 本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。
これだけの顔ぶれが一堂に会する機会は滅多にありませんので、活発に意見が飛び交う有意義な座談会にしたいと思います。
どうか皆さまよろしく願います。

一同 よろしく願っています。

**反省点や今後の課題を明確にするには、
一歩一歩着実な前進を**

小松 早速ですが本題に入りましょう。
まずは、昨年度の経営状況に関して。
栄グループ全体で売上400億円という大きな目標を掲げたものの、最終的には目標を大きく下回る結果に終わりました。
個々の会社を見れば売上増となった会社もあ

りますが、グループ全体としては思い通りの成果が生まれませんでした。
基本的には「売上」仕事量だと私は認識しているのですが、2015年の売上倍増をめざすにあたり、反省点や今後の課題は明確になっているでしょうか。

千代 小松チューブエンジニアリングにおいては、主要取引先の売上に頼っている状況で、主要取引先からの受注状況が芳しくないため、あおりをまともに受けてしまった、ということに尽きます。

ですが、2011年に栄運輸工業の枚方支店の一部署を移管し、小松チューブエンジニアリングに統合したことで、当社の技術領域には製缶のノウハウが新たに加わりました。
それにより、溶接ロボットによるハンドレールの製造など、仕事の幅が格段に広がりましたし、事実、海外現地法人との新規契約、受注

の大きな課題であると認識しています。

小松 エンドユーザーのニーズをいかに汲み取り、付加価値の高いサービスを提供できるか――。
実際に最前線で接客を担当するのはアルバイトのスタッフが多数でしょうから、彼らの立ち居振る舞いひとつで心をつかめる場合もあれば、逆に離れてしまう場合もある。
ということはスタッフの教育が重要になってきますね。

小松(泰) おっしゃる通りです。2015年は所長主導でマニュアルの強化を図り、どこにも負けないくらい質の高いサービスを全スタッフが提供できるよう変革に努めます。
ベースさえしっかりしていれば、繁忙時などの臨機応変な現場対応力も自然と身につくものだと思います。

小松 ランドヘルパーの主軸は環境ビジネスであり、社会貢献に直結している栄グループのシンボリックな存在でもあります。

**質の高いサービスを全スタッフが
提供できるよう変革に努める**

極東油業株式会社
代表取締役社長
小松 泰



これまでの流れや今後の展望を聞かせてください。

上杉 2015年でランドヘルパーは、設立七周年を迎えました。
これまでの取り組みで組織の決まり事や体制の基礎がようやく整い、今年は躍進を遂げる勝負の年です。環境ビジネスには法律が付き物であり、工事を手がけるお客さまにとっても法律問題をいかにクリアするかが最大のネック。案件によって異なる要望をしっかりと汲み取り、顧客満足に注力していきます。
現場には、お客さまをはじめ様々な関連業者の方々もおられるので、私たちの仕事は「工事中が一番の営業」といえます。
工事が完了した後の清掃やごみチェック、施主さまへの締めのごあいさつなど、細やかな気配りもおそろそかにせず業界オンリーワンの存在をめざします。

大嶋 私からも一言。協栄株式会社は皆さまもご存じの通り、栄運輸工業・東北営業所における構内業務全般を請け負っています。
栄グループが長きの歴史にわたり培ってきたノウハウや技術を受け止める「最後の防波堤」であることが私たちの誇りであり、従業員の大きなモチベーションとなっています。
2015年はこれまで以上に人材育成に力を注ぎ、より強固な管理体制の確立をめざしていきます。

櫻木 私ども枚方梱包も主要取引先に依存しており、関西ブロックの事業拠点も、主要取引先の大阪工場内です。
ですが、石川県の栗津ブロックについては独立した塗装工場を所有していますので、昨年は、まずこの工場に目をつけて改善を図りました。

小松チューブエンジニアリング株式会社
代表取締役社長
千代 俊彦

**建設機械以外の営業をもっと増やし
新しい受注につなげて現状打破を図る**



枚方梱包株式会社
代表取締役社長
櫻木 武志



適材適所の人員配置を実践し
黒字達成の流れを軌道に乗せてゆく

具体的には、様々な受注からしっかりと利益が見込める仕事のみを取捨選択して引き受け、適材適所の人員配置を実践。その取り組みが功を奏し、粗利益の段階で黒字に持つていくことができました。

この流れを確実に軌道に乗せられるかどうか、目下最大のキーポイントだと気を引き締めています。

小松 井上さんにお聞きしたいのですが、栄トランスポートは、栄運輸工業を窓口には様々な業態業種のお客さまを抱えておられる物流会社として、今後の戦略はどのようにお考えですか。

井上 ここ二年ほどで顕在化した輸送量の増加に伴う車両不足、乗務員不足の問題に加え、燃料の高騰が追い打ちをかけた苦しい状況にあります。現状に甘んじていれば八方ふさがりになる危険性もあり、生き残りをかけた打開策が急務の課題です。

現在、私が最も力を入れて取り組んでいるの

何故なら、売り込み商材とはまったく違うところで、きつかけが生まれることがあるからです。なので、営業には栄運輸工業の会社案内も用意していきます。

上杉 小松チューブエンジニアリングの溶接技術は喉から手が出るほどほしいですよ。専門的なことができる職人を一人呼ぶだけでかなりのコストがかかりますから、そこをグループ内でまかなえるとしたら、どれほど大きな強みになるか――。

千代 それこそ、当社が同行して受注につながれば、グループとしてもチャンスが大きく広がりますね。

上杉 お互いに持っている情報を共有すれば相乗効果は高いでしょう。

皆で違う技術を持ち寄り、ひとつの大きな仕事を仕上げる、一社では対応できない大型案件を栄グループ全体で請け負う、なんてことも考えられますよね。

最終的にはグループ内でできないことが無くなるのではないのでしょうか。

新規開拓につながる情報収集を
強化するよう叱咤激励する

栄トランスポート有限公司
取締役社長
井上 清志



が、得意先さまとのコミュニケーションを積極的に図ること。堅苦しい雰囲気ではなく、たとえばお茶を飲みながらの雑談でもいい。そこから大きなチャンスにつながる糸口をつかめればと思っています。

そして、配車を担当している管理職の従業員にも、新規開拓につながる情報収集を強化するよう叱咤激励しています。

小松 トップの皆さんの課題や今後の展開などご意見をお聞きしたうえで改めて提議しますが、今後の発展を見据えるにあたり、栄グループ全従業員に必要なのはプロ意識ではないでしょうか。

2014年は、栄運輸工業をはじめ枚方梱包を除く各社に様々な事故が起きてしまいました。中には、素人同然と揶揄されても仕方のないような事故もあり、プロ意識が欠如していると言わざるを得ません。

事故を起こさない心がけはもちろん、従業員にいかにプロ意識を植えつけるか、という点についてごなにかご意見をお聞きしたい。

千代 小松チューブエンジニアリングの場合ですが、新人スタッフに関しては、マニュアルに加え安全教育をしっかり植えてから現場に送り出す流れを遵守しています。

ですが、最も事故が起こりやすいのは作業に慣れ始めた頃。そのため、朝礼の際は第1に安全確認について注意を促し、現場では声を掛け合ってお互いの作業を常に確認するなど、全従業員に対して事故を未然に防ぐ意識づけを徹底しています。

現在、850日にわたって無災害を継続していますので、まずは1000日を目標に安全啓蒙に全力で取り組んでいきます。

上杉 まさに小松社長のおっしゃる通りです。

櫻木 グループ内に横串を通す絶好の機会としては、親睦を深める意味合いで三年に二回ペースで行っているグループ全体の慰安旅行がありますね。

他にも各会社の事業内容発表会のような場を設け、グループ会社のことを知ってもらうことが必要といえますね。

井上 それぞれの会社が連携し合うのはもちろんのこと、コストの面においても、栄グループのスケールメリットが大いに活かできると感じます。

小松 2015年、新たなスタートを切るにあたり、グループ会社が情報を共有し、連携する組織改革を行いましょ。

そうすれば、個々の従業員が自分の会社だけではなくグループ全体を意識するようになり、現場から新しいアイデアが生まれてくるようになるはずですよ。

そして、皆さんがそのアイデアを吸い上げていくことで、新たな可能性が広がる。

まずはトップである皆さんがリーダーシップを発揮し、互いの得意分野を活かすことでグループ全体を発展させていきたいと願います。

上杉 今年は栄グループの連携が新たなアピールポイントになりそうですね。

私も積極的に外に向かってグループの技術力をアピールしていきますよ。

小松 「アピール」というキーワードが出てきましたので、私から提案があります。

栄グループでは十年ほど前からそれぞれの会社でデザインや仕様が異なる名刺を採用していますが、ここはひとつ思考をガラッと変え、統一感のある名刺で栄グループのスケール

協栄株式会社
代表取締役社長
大嶋 利信



これまで以上に人材教育に力を注ぎ
より強固な管理体制の確立をめざす

ランドヘルパーは大きな事故こそ起こさなかったものの、従業員のプロ意識が、まだまだ足りない。判断力、機動力に優れた人材の育成が必要だと痛感しています。

まずは、個々の潜在能力を上手に引き出し、プロフェッショナルな人材の育成に力を入れた従業員の教育を実施します。

各々の技術や特技を引き出し
グループのスケールメリットを活かす

小松 千代社長と上杉社長に従業員の「プロ意識」についてご意見をいただきました。

では「会社の姿勢」としていかがでしょうか。

私は、栄グループを発展させていくには各々がスケールメリットを活かし、活躍の場を広げていくことが急務と考えています。

皆さんは、実際どのような取り組みを行っていますか。

小松(泰) 極東油業は燃料商社ですが、取引先は様々。営業に伺う際は、『他にどんな事業をされていますか?』とお聞きしています。

感を効果的にアピールできないかと。

小松(泰) 名刺は考え方ひとつでアイデアが出てきそうですね。極東油業では、従業員に二種類の名刺を持たせているんです。

ひとつは氏名と自社の名前だけが記載されたもの、そしてもうひとつは裏面にグループ会社の名前が記載されてあるもの。

後者の名刺は、商談の際などに話題が膨らむきっかけにもなっています。

櫻木 二つ折りサイズで片面に自社、もう片面にグループ会社の名前とウェブサイトのアドレスが記載されている仕様も良いですね。

大嶋 『詳しいことはウェブサイトをご覧ください』というメッセージが込められているわけですね。

小松 その通りです。

今後の展開を見越してスケールアップしたコーポレートサイトを見ていただければ『栄グループは幅広い分野に事業を展開している』と、即座に理解してくださるでしょう。

案件によって異なる要望を汲み取り
顧客満足に注力していく

ランドヘルパー株式会社
取締役社長
上杉 尚巳



新たなビジネスモデルを募り
グループ全体を活気づける起爆剤に

小松 実は、私の中で今年やってみたいことがあるのです。

栄グループ従業員全員から新しいビジネスモデルを募るコンペ的なイベントで、仮タイトルとして「ビジネスモデル甲子園」とでも名付けましょうか。

『俺はこんなことをやってみたい！』

『こんなビジネスはどうだろう？』

『こんな商売をひらめいたんです！』
何でもいいのです。皆さん口には出さなくても、頭の中にアイデアのひとつやふたつは持っていると思います。そうして集まったアイデアの中からグランプリを選出する。自分が考えたビジネスモデルが会社を動かす——。実現できる、できないはともかくとして、グループ全体を活気づける起爆剤になればそれで大成功ではないかと。

櫻木 私たちマネジメント側の人間からは思いもよらない斬新なアイデアがどんどん生み出されるかも！しませんね。

千代 それは素晴らしいアイデアですね。何より、従業員の個性が活かされた時に、個々の隠れた才能を引き出すきっかけにもなりそうです。

小松 私の一番の思いは退職者を無くしたい。『いろいろと悩んだのですが、やはり私は福祉の仕事に就きたいので会社を辞めさせていただきます。』

私がこの発想を思いついたのは、こう言って会社を去った過去の退職者がきっかけでした。もし栄グループに以前からこういうイベントや企画があつて、そこから福祉事業に着手する流れが生まれていたら、その従業員は辞めなくて済んだかもしれない。

そして、その事業が大きな成果をもたらした可能性もあるのですから。

井上 仕事にやりがいを感じ、前向きな考えを持って取り組む従業員は、会社にとって何よりの大きな力であり宝だと思います。

大嶋 新しいビジネスチャンスは、考え方ひとつでどこまでも無限に広がっているということですね。

小松 皆さまに2015年にかかる意気込みを語っていただき、私としても心強いです。先代の小松弘人が亡くなり、早いもので丸六年がすぎようとしています。今年の年初めには七回忌法要が行われます。

私が社長となり、栄グループは、従来の機関連営から皆さまが望む新幹線型経営に生まれ変わることができたでしょう。

今年は私自身の行いも含め、いま一度経営のあり方について検証する年にしたいと思っています。そして皆さまには、お客さまに効率よく製品を運送させるための提案をするなど、新しい付加価値を生み出す感覚を養ってほしい。栄グループの物流事業は決してロジスティックの末端ではありません。

ひとつの製品が開発され、ユーザーの元に届けられるまでの一貫の流れが「モノづくり」なのです。

誰か一人が支えるのではなく、栄グループ全従業員の力が集まれば、売り上げ400億円は達成できない数字ではありません。

皆さま、本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

同 ありがとうございます。

S(安全)、L(コンプライアンス)を遵守し、Q(品質)、D(納期)、C(コスト)を常に意識した顧客満足度の高い工場であることを第一の目標に掲げます。また、グループ会社と連携し、新たなチャレンジに挑みます。

流した“血”を“肉”へと変え、実り多き年にするため、今まで以上に従業員一同精進していきます。そして、従業員が成長できる舞台やチャンスを少しでも多く提供し、成果が出れば最大限に評価します。

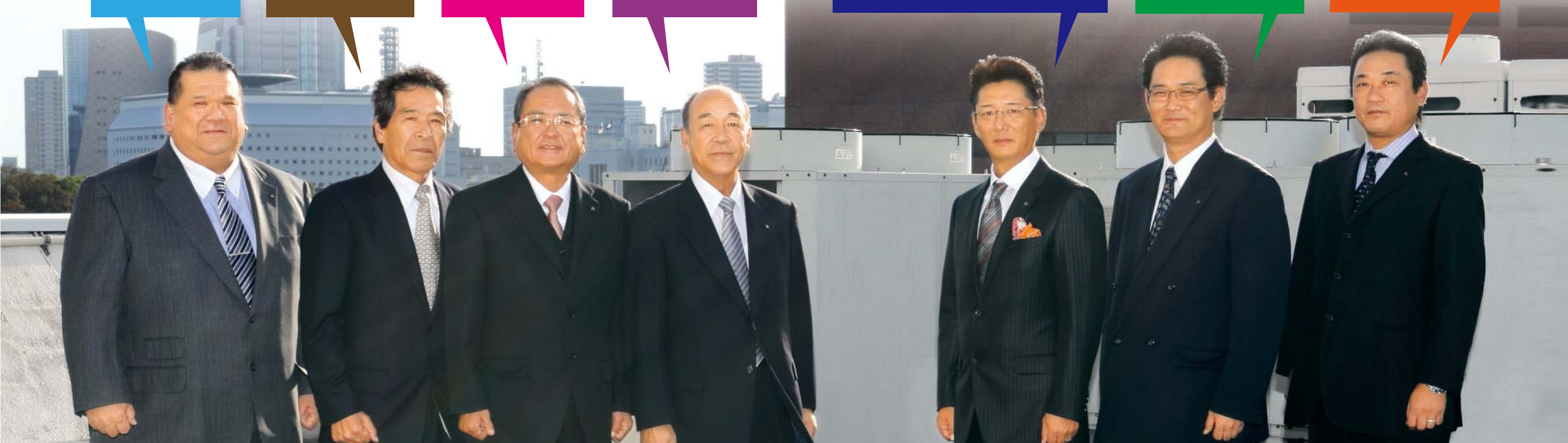
これまで以上に「数字にこだわる一年」へ。グループ全体では、昨年度に引き続き「売り上げ400億円達成」を目標に掲げ、前進していく決意を新たにしています。もちろん、ひと筋縄ではいかないことは私も承知のうえです。ですが、従業員一人ひとりが力を発揮し、大きな力を生み出せたならば、決して不可能な数字ではないと確信しています。

車両不足、ドライバー不足をクリアにすること。「無事故」「無災害」「健康第一」を合言葉に、安全輸送と顧客満足に従業員一同力を合わせて取り組みます。

第一目標は、失敗を恐れず若い人材に積極的に責任ある立場を任せたいと考え、人事考課制度賃金体系の見直しを検討。そして、目前に迫った無災害記録1500日達成をめざします。

完全無災害を最大の目標に掲げ、原点に立ち返り、現場を見渡し、安全な職場環境づくりを心がけます。従業員がそれぞれの役割を全うできるよう職場の整備に力を注ぎます。

「スピード」と「実行力」をテーマに掲げ、思い立ったらすぐに行動できる体制づくりを強化させていきます。そして、リスクリバーサル観点から全体の業務の流れを、いま一度見直していきます。



新しい仲間を
紹介します！

New Face

栄グループの新入社員の皆さんを
入社にあたっての動機や抱負、意気込みと共にご紹介します！

会社に貢献できるよう
日々努力していきます。



2014年10月入社
栄運輸工業株式会社
阪神支店
楠本 祥

怪我をしないよう
気をつけて仕事します。



2014年10月入社
栄運輸工業株式会社
枚方支店
中岡 雅司

焦らず、丁寧な仕事を
心がけます。



2014年10月入社
栄運輸工業株式会社
枚方支店
南戸 実紀

精一杯頑張りますので、
よろしくお願いします。



2014年10月入社
有限会社
栄モーターサービス
森村 達郎

活気にあふれた職場で
働けて嬉しいです。



2014年7月入社
小松チューブ
エンジニアリング株式会社
上野 雅貴

何事にも果敢に挑戦し
頑張っていきます。



2014年9月入社
小松チューブ
エンジニアリング株式会社
齊藤 涼健

自分の経験を活かせる
ように日々勉強です。



2014年10月入社
小松チューブ
エンジニアリング株式会社
市丸 紀美広

何事にも手を抜かず、
一生懸命頑張ります。



2014年8月入社
枚方梱包株式会社
粟津営業所
荳埜 太

前職での経験を活かして
貢献していきたいです。



2014年9月入社
枚方梱包株式会社
粟津工場
嘉藤 真弓

ケガをしないよう安全第
一で働きたいと思います。



2014年9月入社
枚方梱包株式会社
第一営業部
花田 健

安全第一で作業に取り
組みたいと思います。



2014年9月入社
枚方梱包株式会社
第一営業部
島崎 里沙

事故がおこらないよう
精一杯頑張ります。



2014年9月入社
枚方梱包株式会社
第二営業部
石井 正志

組立を早く覚えて役に
立てよう頑張ります。



2014年10月入社
枚方梱包株式会社
粟津工場
高木 和香子

自分のやるべき事をしっ
かりやっています。



2014年10月入社
枚方梱包株式会社
第一営業部
角南 重徳

安全第一で頑張りますの
でよろしくお願いします。



2014年10月入社
枚方梱包株式会社
第二営業部
峰松 浩子

将来は指導の立場にな
れるよう頑張ります。



2014年11月入社
枚方梱包株式会社
粟津工場
澤田 匡

GROUP TODAY

栄グループ

救急救命講習



平成26年8月29日、栄運輸工業
阪神支店主催、第4回となる救急救
命講習会を尼崎西消防署にて行い、
今回も各支店やグループ会社から
大勢の従業員や家族が参加しまし
た。前回までは「救命入門コース」を
学びましたが、今回は「普通救命講
習」となり、止血や熱中症などの応急
手当方法や、心臓マッサージ・人工呼
吸などの心肺蘇生法やAEDの使用
方法などを実習しました。救急救命
講習会を通じて命の大切さを知り、
正しい対応や救命法を学ぶことで、
今後役に立ててほしいと思います。

栄運輸工業

交通安全講習



平成26年11月1日、本社会議
室において、業務中の事故撲滅
をめざした交通安全講習会を行
いました。この講習会は、東北
支店営業所が栄グループ従業員
一人ひとりの安全意識を向上
させる試みとして企画したもの
で、栄グループ各社の乗務員と
管理監督者が参加しました。講
習会では都島警察署の協力のも
と、実際に起こった事故の説明や
交通事故体験者の再現VTRを
基につくられたDVDを視聴し
ました。
この講習会
で得た教訓を
踏まえ、これか
ら安全意識
を高めるため
の試みを続け
ていきます。

栄グループ

うろこ会 ゴルフコンペ



小松 範行社長(右)と
個人成績で優勝の水野 一さん(左)
チーム対抗戦優勝
極東油業株式会社チームの皆さん

個人戦			
優 勝	水野 一さん	NET61	(栄運輸工業株式会社東北支店東北営業所)
第2位	小松 範行社長	NET70	(栄運輸工業株式会社)
第3位	川原 幸男さん	NET72	(極東油業株式会社)
チーム戦			
優 勝	極東油業株式会社		

平成26年11月9日
に瀬田ゴルフコース
(東コース)にて、うろ
こ会ゴルフコンペが行
われました。結果は左
記の通りです。
皆さんおめでとう
ございました。

※なお、出場者の全成績は栄グループの
ホームページから確認いただけます。

小松商事

玄米花子

今まで三重県伊賀産のお米も販
売しておりましたが、26年秋からは
鳥取県日南町で収穫した特別栽培
「海かい」のみとなります。
今後は鳥取県に限らず、全国の頑
張っていらっしゃる農家さんの美味
しいお米を販売していく準備を進め
ておりますので、正式に販売するこ
とになりましたら報告いたします。

枚方梱包

フォークリフト 技能競技大会銅メダル

平成26年10月30日に行われ
た、コマツ大阪工場フォークリフ
ト技能競技大会にて、枚方梱包
株式会社の福原亮選手が銅メダ
ルを獲得しました。本大会は安
全確保のための基本動作およ
び、運転技能レベルの向上を図
り、フォークリフトの安全運行の
基本を再確認する意味も含めて



開催され、今回13名
で競い合いました。
今後、さらに上
位、そして無事故・無
災害をめざし、従業
員一同頑張ります。

枚方梱包

技能競技大会 梱包部門優勝

平成26年6月21日に開催さ
れた、コマツ関西地区技能競技
大会 梱包部門で枚方梱包株式
会社の波江野秀和選手が見事
優勝しました。この競技は、「の
こぎり」と「かなづち」を使用
し、人力で課題の木箱を一定時
間内に完成させるというもの
です。学科もあって、毎年あと



少しのところで涙を
のんできましたが、
今年は見事に栄冠
を勝ち取りました。
後日、大阪工場長
より記念の楯と表
彰状も頂きました。

小松チューブ
エンジニアリング

優良従業員として 表彰されました



平成26年11月5日、建設機械の
重要部品である油圧配管やハンド
レールの溶接技術の向上、および人
材育成に大きく貢献した優良従業
員として、上野信行さんが北大阪商
工会議所より表彰されました。

Interview

私が経験した災害事故を栄グループ全従業員の「教訓」として「危険ゼロ」の職場づくりのために役立てたい。

2012年10月、栄運輸工業株式会社にて痛ましい事故が発生しました。何故事故が起きてしまったのか、どうしたら事故は防げるのか——。当事者である奥野さんに事故当時の状況について伺いました。

どのような事故が起きたのですか？

工場内でコイルを巻き取る機械で作業していた時のことです。製品の状態を確認しようとコイルに手を出した瞬間、機械に腕を巻き込まれる事故を起こしてしまいました。危険な行為だと認識していたのですが、昼休み目前で機械をとめなければならなかったので「キリのいいところまで早くやっしまおう」と、気持ちが焦ってしまったのだと思います。

怪我の具合はいかがでしたか？

幸い命に別状は無かったものの、全身数か所の骨折と切り傷の大怪我を負い、休職を余儀なくされました。休職中は、自分の身体が思うようにならないもどかしさを抱え、会社や取引先に多大な心配をかけてしまったこと、損害を与えてしまったことを心から悔やみました。何より、こんな事故を起こしてしまった自分自身に腹が立ちました。とにかく1日も早く復帰できるよう、ただひたすら治療に専念し、家族や周囲の方々に支えられながら、5か月の入院、1年のリハビリを経てようやく職場復帰できました。

栄グループで働く皆さんにメッセージをお願いします。

栄グループで働く仲間の皆さん、現場作業において最も守るべきものは「安全」です。「自分は慣れているから大丈夫」といった慢心や不注意が、取り返しのつかない大きな事故を引き起こす恐れがあるのです。たった1人の不注意で起こった事故が多くの人に迷惑をかけ、会社の社会的信用を失墜させるだけではなく、自身のこれまでの生活が一変してしまう事態にもなりかねないのです。大切な家族に悲しい思いをさせないために……。皆さんには、私のような事故が二度と起きないよう、慣れている作業ほど気を抜かず、安全意識を持ってほしい。そして、私はこの災害での経験を栄グループ全従業員の安全活動に役立てていきます。

無事復帰されて何よりです。貴重な体験談をありがとうございます。

奥野 聡

栄運輸工業株式会社
泉北支店泉北営業所 所属
平成24年10月、業務中に事故に遭い、全治約1年の怪我を負う。



栄運輸工業株式会社 枚方支店 支店長
安全衛生協議会 チーム長

長谷川 昂 はせがわ たかし

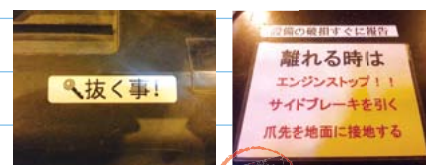
そして、従業員の皆さまには無事故、無災害をめざすことを栄グループ全従業員の誓いとして、安全への取り組みを実践してほしいと願っています。

安全衛生協議会は、安全衛生基本理念のもと、各製造現場の安全確保と職場環境の改善を目的として発足されました。チーム員には栄グループの従業員に加えて、外部コンサルタントの福井直大先生をアドバイザーとして招聘し、法令遵守の観点からの検証も行っています。具体的には、各製造現場の問題点を抽出し、改善を行う安全パトロールを主体に、行動する前に解決する訓練、従業員みずから危険のポイントや重点実施項目を確認し、自発的な改善を行うKYT（危険予知訓練）、リスク特定し、分析するリスクアセスメントを学ぶセミナーなど、現場管理監督者の指導や安全教育を実践しています。私たちの活動は、現場で作業に従事する方々の同意と理解がなければその効果を発揮できません。いまだ、従業員の皆さま一人ひとりが安全について深く考え、私たちの活動に協力していただけることを願っております。安全衛生協議会は、これからも実効性のある取り組みを継続的に推進していきます。

**従業員一人ひとりが安全について考え
自ら行動する安全衛生活動を**

安全衛生協議会 指摘・改善報告

2014年6月19日、栄運輸工業 阪神支店で行われた安全パトロールの一部を紹介します。この結果を参考に、各職場での安全管理体制をいま一度確認し、役立ててください。



注意書きを掲示

フォークの鍵を付けたままの駐車は危険であることを理解しており、事故が起らないよう注意書きを掲示し、きちんと守られている。



KYT活動の実施

KYT活動（危険予知訓練）を朝礼などで実施し、年間活動計画もしっかり現場に周知されている。



清掃具置場

各トラックヤードに設置し、週末だけでなく作業終了後にはホウキを持ち職場の美観、3Sにも取り組もうという意識で行っている。



良 吊り具掛け

使いやすいように考慮して作成し、全員が手荒に扱わず、きちんと使用している。



良 専用治具

吊る製品に合わせて3種類のサイズを使用。作業効率の改善につながっている。製作は小松チューブエンジニアリング、材質は高張力鋼を使用している。小松チューブの担当者と打合せ、改良を重ねた。

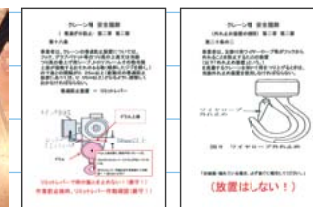
改 始業前の機械点検

始業前にはフォーク、クレーン、吊り具の点検を。また、点検内容の確認も責任者の立ち会いのもと行うよう指導。



改 ストッパー作動テスト

クレーンワイヤーの巻き過ぎにより、フックブロック（荷を吊る所）がジブ（クレーン上部）に激突すると、ワイヤーが切断され、吊り荷の落下を招く危険性がある。そのため、毎日始業前に必ずストッパーの作動テストを行い、必ず作動するかを確認するよう指導。



栄グループミッション

災害ゼロをめざして

2012年、栄グループの中で重大な事故が発生しました。栄グループでは、二度とこのような事故を起こさないよう原因分析や再発防止に向けた対策を行っています。ですが、最終的には従業員一人ひとりが危機意識を持って日々の業務を行うことが求められます。今回のうろこもくしよんでは、栄グループで行っている安全衛生協議会の活動を紹介します。この活動をいま一度理解し、無事故、無災害をめざすことを栄グループ全従業員の誓いとして取り組んでください。

プロが教える本格レシピ 炊き込みご飯

秘伝の味

炊飯器でも美味しく炊けますが土鍋で炊けば食卓の主役に! ご家庭で使っている鍋料理用の土鍋でも簡単にできますよ。



炊き込み御飯用の基本出汁

- ① 水1ℓに昆布4gを入れ、火にかける。
・沸騰する手前で昆布を取り出し、カツオ節15gを加えて弱火で5分沸かし、その後濾す。(だしの素で代用可)
- ② ①の出汁1ℓに対し酒30mℓ、濃口醤油大さじ1/2、みりん小さじ1、塩9gを混ぜ、火にかける。
・沸騰したら火を止め、冷ます。

牡蠣の炊き込みご飯 (4人前)

材料 お米…………… 2合
牡蠣…………… 中粒5〜6個 (基本は生牡蠣を使用)
生の椎茸…………… 3個
基本出汁…………… 380cc + 濃口醤油 小さじ1
三つ葉…………… 適量

- 手順**
- ① 米を洗い30分 (新米20分) 浸水させた後、ザルにあげ (最低15分) 水切りする。
 - ② 椎茸は軸を切り落とし傘を6〜8等分に切り分ける。
 - ③ 牡蠣を大根おろしで洗い熱湯に入れさっと茹で、氷水ですぐに冷やし、キッチンペーパーで水気を取る。
 - ④ ①、②、③、基本出汁で炊き上げる。
 - ⑤ 火を止めた際三つ葉を入れ、全体を混ぜ15分蒸らす。

プロの技 其の壱: 蒸らしは大事にせよ

でんぷんが糖分に変わる重要な時間なので、この時間を大事にするのが決め手です。



具材を変えて
とうもろこしご飯
生巻ご飯も!

プロの技 其の弐: 土鍋での炊き方

2合なら8分、3合なら12分程度が目安の時間。(強火) 時間はあくまで目安で、沸騰し湯気が勢いよく出るまで強火にかけるのが重要!!
(気温や水の温度で沸騰するまでの時間に差が出ます) 勢いよく湯気が出たら弱火にし3〜4分。
(少し焦げた臭いがしても大丈夫です) あとは火を止めて15分蒸らし、混ぜあげて完成!!



レシピ提供: 北銀扇 (<http://kitaginsen.p-kit.com>)

満を持して始まった大釜哲の熱血レポート! 待望の第1回は、10月19日(日)尼崎市記念公園陸上競技場で行われた、コマツラグビー部公式戦での我が栄グループ従業員の勇姿をお伝えしよう!

大釜哲の熱血レポート! vol.1

「コマツラグビー部」編

我が栄グループは8年ほど前からコマツラグビー部[KOMATSU Yellow Bulls]に所属しており、現在は栄運輸工業堺海営業所の辻本所長、秋山氏、本社管理部の久田里主任、泉北支店泉北営業所の河合氏の4名が[KOMATSU]のユニフォームを着てプレーしている。試合当日は清々しい秋晴れにグラウンドの青々とした天然芝。そんな絶好のコンディションの中、対戦相手の大阪市教職員チームとコマツラグビー部のメンバーとして、我が栄グループの秋山氏、河合氏、久田里主任が熱い戦いを繰り広げた。(※残念ながら辻本所長は欠場) 14時ちょうどにキック・オフ。スターティングメンバーに選ばれた秋山氏はフランカー(フォワード)で出場。スクラムでの押し合いや、敵のボールを奪うべく、屈強な選手たちがぶつかり合う激しいポジション! 小柄ながらも果敢に仕掛けている姿が見られた。しかし、試合の前半は防戦一方。味方のパスミスや相手チームに力で押し切られトライを献上するなど、実力の差を見せつけられるような試合運びとなった。ハーフタイムにはチーム全員が円陣を組み、もう一度気合いを入れなおす。取られたら取りかえす! 倍返しだ!! 後半から満を持して河合氏が登場。攻撃方向に向かって一番右側、中央からのパスを受け相手のディフェンスをかいくぐってトライをするのが彼のポジション、ウィング(バックス)。河合氏は相手のタックルをもとめず果敢に攻め、チャンスをつくり出すも得点には結びつかなかった。それでも、前半よりコマツチームの攻撃の機会が増え、ゴールライン間近まで幾度と迫るものの、相手チームの強固なディフェンスにより攻めきれぬまま無得点で終了。0対54と完敗だった。



突破を試みる河合選手

今回の取材で感じたことは、スポーツに隔たりはない。観客は、選手がどの社員なのかは関係なく[KOMATSU Yellow Bulls]を応援し、選手全員にエールを送っていた。試合結果は残念だったがコマツラグビー部と4名の活躍を見ることができ、誇らしく感動した。試合後、今回の試合について久田里主任に質問すると、「コマツのメンバーと一緒に練習する時間を増やし、戦術的に良くなるためにももっとコミュニケーション

をとりたい。」と語ってくれた。

今後、メンバーが共に切磋琢磨し、チームとしても強くなり、常勝チームになっていくことを期待する。

また、これらの活動を通じて、コマツ様と栄グループとの信頼関係が強化されていくことを願うばかりだ。



左から大釜レポート、秋山さん、河合さん、久田里さん

お疲れさまでした 倉田さん

昭和48年に入社し、昨年7月に退社された倉田さん。勤続41年、栄グループ一筋で邁進されてこられたことに感謝の気持ちを込めてご紹介いたします。



Q思い出に残るエピソードを教えてください。

コマツ様が休日で、枚方支店も休日となったある日、1人で業務を行っていたら、小松弘人社長(当時)が突然お越しになって驚きました。その時かけてもらった励ましのお声が嬉しくて今でも忘れられません。

Q栄グループへメッセージをお願いします。

栄グループでの仕事は、全てコマツ関係の業務をさせていただいて、大企業と中小企業のレベルの差を感じつつも、大企業の仕組みやビジネススキルを身に付けることができました。皆さん、これからも栄グループを盛り立てて頑張ってください。

栄グループ従業員一同より倉田さんへ

今までありがとうございました。今はお母様の介護にお忙しい毎日をご過ごしいらっしゃると思いますが、今後も栄グループ従業員を見守ってください!!

倉田 修(くらた おさむ) プロフィール

昭和48年3月1日 栄運輸工業株式会社 入社
枚方営業所(現枚方支店)に配属
コマツ大阪工場内、建設機械の出荷業務に従事
昭和61年6月 コマツ大阪工場内、構内物流業務を担当
平成元年4月 コマツ大阪工場内、構内請負作業の管理業務に従事
平成10年4月 枚方ワークス(後の栄技研) 入社(転籍)
代表取締役として人材派遣業務を行う
平成25年4月 小松チューブエンジニアリング株式会社 入社(転籍)
建設機械の油圧配管の出荷業務を担当
平成26年7月 小松チューブエンジニアリング 退社



入社3年目の社員旅行にて小松弘人前会長(当時社長)と

「うろこも〜しょん」 タイトルロゴの 作者を紹介します!

栄運輸工業株式会社 阪神支店
山田 真孝さんのお子さま

写真左より

山田 瑞葵(みずき)さん 9歳
山田 蒼人(あおと)さん 6歳

ありがとうございました!



* 編集後記 *

編集長の辻本です。今回のグループトップ座談会、いかがだったでしょうか。初めての試みでしたが、こんなメンバーが揃うことはなかなかないですし、とても有意義な時間となりました。今後もグループの垣根を超えた企画をお届けできたらと考えています。次回もお楽しみに!

【表紙を飾ってくれるご家族募集・ご意見ください】

ご家族さまの写真や、ご意見を募集しております。

下記受付までお寄せください。

担当: 辻本 j-tsumimoto@sakae-uk.co.jp

栄グループ社内報「うろこも〜しょん」は
栄グループホームページからもご覧いただけます。

<http://sakae-group.jp/>

